

A-7

## 日本大学理工学部科学技術史料センター「木村秀政文庫」の資料調査 私たちがみた先生の研究の足跡

The contents of “Kimura Hidemasa Bunko” and the real of Hidemasa Kimura  
What we thought from “Kimura Hidemasa Bunko”

○安福紘大<sup>1</sup>, 原千賀<sup>1</sup>, 登川幸生<sup>2</sup>, 伊豆原月絵<sup>3</sup>

Kodai Yasufuku<sup>1</sup>, Chika Hara<sup>1</sup>, Sachio Togawa<sup>2</sup>, Tsukie Izuhara<sup>3</sup>

Abstract: In this paper, we discuss about the content of “Kimura Hidemasa Bunko”, which was found by organizing it, and the real face of Kimura Hidemasa from it. “Kimura Hidemasa Bunko” comprises total 213 points documents that were left by Kimura Hidemasa, emeritus professor, Science and Technology, Nihon University. At the same time, we organized the “Kimura Hidemasa Bunko”, we thought about the real face of Kimura Hidemasa by touching its content. Because of the content of the materials of the “Kimura Hidemasa Bunko” were well organized so we thought Kimura Hidemasa has a very carefully character.

### 1. 「木村秀政文庫」概要

木村秀政 (以下, 木村) は日本大学理工学部名誉教授であり, 戦後初の国産旅客機である YS-11 を設計製造した人物として広く知られている. 日本大学機械工学科航空専修コース(現 日本大学理工学部航空宇宙工学科)で, 学生と共に日本初の人力飛行機の設計製作飛行を行い, 当時の世界記録を樹立した. さらに, 1970 年から 1973 年の 4 年間にわたり, 日本大学理工学部学部長を務めた.

木村の航空機設計の信念は学生達に脈々と受け継がれ, 現在も日本大学では人力飛行機の制作において高い技術を有している.

平成 16 年に日本大学理工学部科学技術史料センター (以下, CSTミュージアム) において, 特別展「木村秀政展」を開催したが, それまでに木村の弟子の柚原直弘から「木村秀政文庫」となる資料を, 平成 27 年ごろから「木村秀政関連資料」として, 教え子の方々から資料が CSTミュージアムに寄贈された. 今回資料を整理した結果, 「木村秀政関連資料」には, 木村に直接関係のないものも含まれていたが, それらを含め「木村秀政文庫」と同様の方法で整理した. 「木村秀政文庫」は主に書籍資料が多いが, 中には当時, 実験で用いていたと考えられる木製の翼型模型等も含まれる. 「木村秀政文庫」には YS-11 や N シリーズ等, 木村が日本大学に就任した後に設計を行なった機体の設計図面や計算書が多く残されている. その他にも木村の直筆の手帳, 論文や写真, 友人から贈られたと考えられる木村宛の資料等が残されており, 木村の素顔や性格, 当時の情景などを読み解くことが可能である.

### 2. 「木村秀政文庫」の資料の種類

資料整理を行なった結果, 「木村秀政文庫」には 213 点もの資料があった. 特に多かったのは, Figure 1 から分かるように飛行機の性能実験の報告書が 50 点, 図面集が 29

点, 学会誌が 23 点であった. 中には, Figure 2 や Figure 3 のような日本大学で設計・製作を行った, YS-11 や N シリーズの実験結果や人力飛行機の初期の図面等が残されていた.

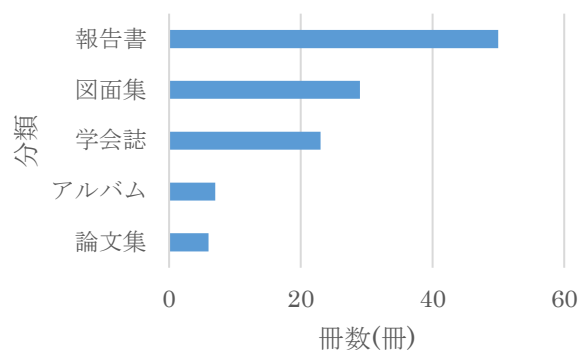


Figure 1. The contents of “Kimura Hidemasa Bunko”

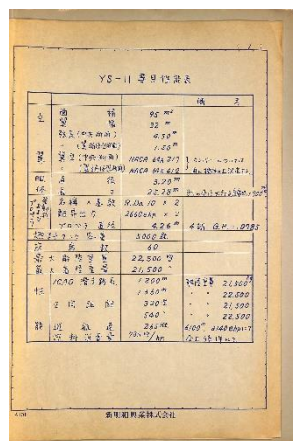


Figure 2. The catalogue of YS-11

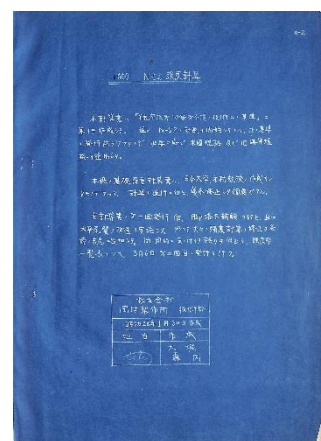


Figure 3. How to calculate about N-52

Figure 4 に「木村秀政文庫」の形態別の資料数を示す. 最も多かったのはバインダー資料で 76 点である. バイン

1 : 日大・学部・航宇 2 : 日大・教員・海建 3 : 日大・教員・一般

ダーには、YS-11 や N シリーズ等の設計図面や計算書が多かった。他にも木村先生が論文を執筆する際に資料として集めたと思われる、論文や学会誌、研究報告書等がまとめられた資料も見つかった。ホチキス留めされた学会誌や論文には、木村が必要であると感じた部分に、鉛筆等で下線やコメントの加筆がされていた。資料は最終的に中性紙箱で「木村秀政文庫」16 箱分、「木村秀政関連資料」14 箱に分けられた。

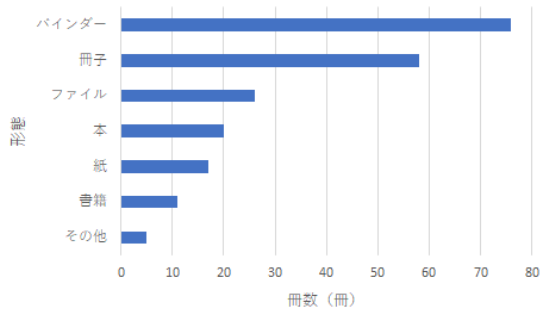


Figure 4. The number of “Kimura Hidemasa Bunko” form of books

### 3. 「木村秀政文庫」の書籍・日記等について

今回資料整理を行った中で最も興味深かった資料は、Figure 5 に示す木村の直筆の手帳である。これには、木村が当時考えた飛行機の性能や今後の課題が書かれていた。木村は自分が行った研究や考えを手帳に記し残す、勉強熱心な性格であったと言える。また、手帳は見開きの片面のみに丁寧な字で書かれていたため、大変几帳面な性格であったことが覗える。

航空宇宙分野の専門家から木村宛に自らの論文に「木村先生へ」と記してある論文集も見つかった。Figure 6 は今回見つかった、糸川英夫から木村に贈られた直筆サイン入りの論文である。

「木村秀政文庫」の中には、さまざまな資料が残されていて、最も多かったのは青焼きである。実験のグラフや機体の設計図等のほとんどは青焼きであった。設計図は種類が機体ごと、部品ごとにきれいに整理されていて、当時の設計・制作の様子を垣間見ることができ、非常に興味深く面白い資料であった。また、直筆の資料も多く、先述した手帳以外にも各種申請書のサインや論文、報告書への加筆などが見つかった。そのどれもが見やすくわかりやすく書かれていた。

資料の中には英語等の外国語で書かれた論文やカタログも多く見つかった。木村が設計・制作の為に最先端の資料や写真等を海外からも集めていたことがわかり、非常

に日本の航空のことを考え、発展させようと思っていたということが伝わってきた。

「木村秀政関連資料」には木村が直接携わってはいない、日本大学で制作された人力飛行機や軽飛行機等の写真や図面が多くあった。その中には形は違ってもノウハウ等は受け継がれていると感じられる物が多く、今でも木村の航空機に対する思いが多く詰まっていると感じた。

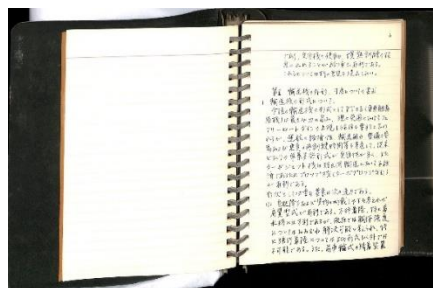


Figure 5. Kimura Hidemasa’s note



Figure 6. An essay from Hideo Itokawa

### 4. まとめ

資料整理は、資料を区別し分かりやすくするだけでなく、残された資料から文章で残されていない本人の性格や状況も読み取ることができる。特に直筆は本人の性格をよく表していて、「木村秀政文庫」は直筆も多いため木村の性格をよく読み解くことが出来る。これらは、資料を見て読み取った人により、感じ方は変わってくるかもしれない。木村の人物や研究姿勢について家族や友人等、本人に近い人にしか分からないこともあるであろう。今後、木村先生の近い人へインタビュー調査を行い、詳細な研究資料を残していくことも重要である。

### 5. 参考文献

[1] 木村秀政：「木村秀政 -わがヒコキー人生-」, 1997  
 [2] 日本大学理工学部航空研究会：あすも飛ぶ -日本大学理工学部人力飛行機の 50 年, 2016